

人権研修で知識の習得だけにとどまっていますか？

文部科学省が公示した学習指導要領には、「アクティブラーニング」という学習法が示されています。実践例を紹介します。

学校では、「そうじ」の時間があります。サボる子もいます。

学級会で「そうじ」のことについて話し合いをしたとき「そうじをして気持ちよかった。」という発言がありました。この「そうじ

をすると気持ちいい」ということについて学習を深めたところ、そうじをサボることなく、楽しそうに取り組む子どもたちが増えたそうです。

そうじをする意味を深く考えず「決まりだから」「しないとおこられるから」「みんなしているから」という理由だけでそうじしている子どもたちは、残念ながら「気持ちいい」と感じることは少ないそうです。そうじをする本当の目的

や効果、もたらす影響や人がどう感じているかなどを考えながらそうじをしている子どもたちからは、「気持ちいい」ということはが自然に生まれてくるようなのです。学級会で初めてこのことを耳にした子ども

たちも、共に考え（知識）、感じ（心）ながら行動することで「気持ちいい」が理解ができるようになるのです。

このような実践例は、教育の現場では多々報告されています。

皆さんは、多くの経験から多くの知識を得ていることでしよう。しかし、「いい、悪いことぐらいいは知っている」だけの知識にとどまって、目的や効果、相手のことを考えたり感じたりするような行動には至っていないことはありませんか。それは、その知識と心（感情）がまだ一体になっていないからかもしれません。

そうならないためには、学ぶときに、感情も含めて深く考えること、ただの知識に終わらせるのではなく、人とのつながりの中で、「感じる、考える、判断する、行動する」ことが大切ではないかと思えます。

人権研修に参加したときには、「いい」「悪い」という知識だけでなく、相手の立場に立って「うれしい」「悲しい」という感情も含めて深く考えてみてはどうでしょう。そうすることによって、すべてのことが自分の豊かな生きる糧になるのではないのでしょうか。まさに「現実から深く学び、自分の生き方を考える」のが人権研修だと思えます。

市人権推進課(教育庁舎1階)
☎ 32・2122
FAX 33・3525
Mail:jinkensuisshin@city.komatsushima-i-tokushima.jp

市民文芸 花みずき歌壇 (338) 松並敦子・選

渓谷の木陰の下に群生す万年の苔静かに生きる

中田町 倉橋 正則

《評》猛暑続きの今年の夏であったが、秘境のような山深くの渓谷にはこのような別世界もあるのだ。渓谷、木陰、群生、万年の全ての語は「苔」に懸かり、ていねいな観察眼によって無駄なく表現されており、特に「万年の苔静かに生きる」には苔の生きざまに、こころ癒されている倉橋さんの姿が見える。

ああまたも眠りていたりパソコンの画面見ていた十分ほどを

ひのみね総合療育センター 関 政明

アルコール駄目な私が今もなおせつせと造る果実酒幾多
片蔭を衣ゆらしてご僧侶は盆会のお経に檀家おまわり

横須町 福島 夢栄
神田瀬町 大西カヲル

盆来れば必ず訪い来て泊まりたる娘等も老いしか電話ですます

横須町 三宅 敏恵
熱中症に倒れる人の増える中したり顔した太陽笑う

立江町 大西 和美

この暑さ明けても暮れても汗流れエアコンの部屋でも体調くずす

坂野町 橋本千代乃
一匹の御歯黒とんぼ迷い込み厨に一服嵐去るまで

江田町 深田 伴子

七人の兄弟いつしか三姉妹に奥津城の水ていねいに替える

田浦町 太田カツミ

豌豆の筋を取るとき取るほどに指の先より癒されている

横須町 山崎 泰子